麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 臨床検査技術学科

職階 准教授

氏名 松井清彦

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

臨床検査技師に求められる役割は、医師が患者を診断するためや治療の効果などを判定するために必要な検査を行い患者の生活の質を向上することである。さらには、国民の公衆衛生を向上させることも担っている。学生が、これらの目標を達成するために必要な技術を習得することができるようにすることが科目担当者としての責務である。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
検査管理学総論	臨床検査技術学科	必修	2	119
公衆衛生学I	臨床検査技術学科	必修	3	87
公衆衛生学II	臨床検査技術学科	必修	4	73
臨床検査学総論実習	臨床検査技術学科	必修	3	86
公衆衛生学実習	臨床検査技術学科	必修	4	73

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

臨床検査には、心電図検査や超音波検査など生理学的な検査の他に血液や尿などを分析する検体検査がある。検体検査においては、精確な検査を行うには知識だけではなく技術も求められている。また、検査が精確に行われているかを評価することは、検査結果を担保するうえで重要な要因の一つである。学生がこれらのことを理解し、技術を習得できるようにすることが大切であると思う。一方、公衆衛生は個々の人間ではなく大量のデータを集め解析を行うことで問題点を見つけ、解決する視点が必要である。我々の住む社会は、ますます情報処理技術が発展することが予想される。特に、データサイエンスという考え方が重要視されることから、臨床検査においても、検査ができれば良いというだけではなく検査によって得られた情報を集め解析することが求められるようになると思われる。実習をとおして、学生が自ら考え問題解決をすることができるようにすることが教員としての責務であると考えている。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

学生教育においては、知識を教授するだけでなく学生自身が講義内容を理解し身に付けなければならない。そのためには、反復学習が効果的であると考えている。そのため、講義内容を振り返るために前回までの講義についての小テストを行っている。小テストは、採点とともに間違ったところを添削し学生に返却を行っている。さらに、添削を行っているか確認するために再提出を実施している。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

無

アクティブラーニングの重要性は認識しているが、科目の特性上具体的にどのように行うことが効果的であるかを検討している。

(2) ICTの教育活用

有

公衆衛生学実習では、学生に自身のパソコンに統計ソフトである「R」をダウンロードしてもらい、仮想データを用いてデータ処理や解析を行っている。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

講義を始める前に、前回までの内容についての小テストを行うことで学生自身が講義までに復習できるようにしている。小テストについては、予め成績に含めることを説明しており小テストを積み重ねることで講義内容がより深く理解されていると思われる。

(2) 学生の理解度の把握

B

講義前に前回までの内容についての小テストを行った。小テストを行うことで、前回までの講義内容のどこが重要な点になっているかを振り返ってどこが重要であるかを理解するのに役立ったと思われる。また、小テストの解答用紙を次の講義で返却し、間違ったところを修正して再提出してもらった。このように、講義内容をふり返る機会を多くすることで、講義内容についてより深く理解できるよう工夫した。実習では、前年度の課題であった、一人一人に目が届きにくい部分についての改善を試みたが成果をあげることができず引き続きの次年度以降の課題として工夫しなければならないと感じた。学生が自発的に実習に向き合うことができるよう、前年と同様に自習課題の量を少なくし取り組みやすくした。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

講義内容を振り返れるよう、小テストを実施している。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

学生の疑問に対してリアルタイムでフィードバックできるよう、質問しやすい状況を作るとは、教員と学生の双方向によるコミュニケーションを高めるだけでなく教育効果も高くなると思われる。

(5) 双方向授業への工夫

C

双方向の授業を目指しているが、国家試験に合格するためにはある程度知識を教えることが必要なため双方向の授業を行うまでには至っていない。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

B

国家試験対策では、過去10年分の過去問題について内容を吟味するとともに模擬試験等の結果から学生が十分に理解していない分野について重点的に講義を行った。また、講義終了後には講義内容について学生からの質問に対して分かりやすく解説を行うなどきめ細やかな対策に努めた。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

講義を分かりやすくするため、内容について十分吟味をして学生の負担を減らした。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

学生がより講義や実習を理解できるよう内容を吟味して講義や実習を行えるよう心掛けたが、成果は思ったほどではなかった。次年度は、本年度の内容を踏まえ学生がより講義や実習を理解できるよう内容を吟味して講義や実習を行うことを考えている。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

講義内容について、分かりやすく理解できるよう努めるようにしたい。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

留年する学生をなくすため、理解不足と思われる学生には講義内容が難しいかどうかを尋ねたり、理解できていない所を把握するよう努めた。今後も、続けていくようにする。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

現在、特にありません。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

学内で開催されるFD研究会に参加し、自分の不足している部分を見出し補完するよう取り組んでいる。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

短期的目標

自分が担当している科目について、学生が知識を習得しさらに深化させるための教材の工夫を行う。また、適宜小テストや課題レポートを課すことで学生がどこまで理解しているか把握することに努める。このため、提出されたテストや課題については学生にフィードバックするようにする。

長期目標

卒業研究等を通して、自分の行っている研究を学生と共に進めることで座学や実習では習得できない技術や知識を深める。さらに、学会等での発表を行い自分の行った研究を第三者に理解できるようなプレゼンテーション力を身に付けられるよう努力する。これらの事を行うことで学科全体のレベルを向上させるよう努める。